

國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

大学教育改革に適応する「SPOC」の応用展望：
日本語学科における「通用+非通用」改革をめぐって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學大学院文学研究科 公開日: 2023-02-07 キーワード: 複合型人才, 大学教育改革, 「MOOC」, 「SPOC」 作成者: 劉, 肖云 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001605

大学教育改革に適応する「SPOC」の応用展望

—日本語学科における「通用＋非通用」改革をめぐる—

The application of SPOC in undergraduate teaching reform:
The case of ‘general major + minor language’ project for Japanese majors

劉 肖 云

Keywords: interdisciplinary talents undergraduate teaching reform MOOC SPOC
キーワード：複合型人才 大学教育改革 「MOOC」 「SPOC」

要旨

現行の中国の大学教育の人材育成モデルにおいては、複合型の人材養成に物足りないようである。一方、中国政府が提唱している「一帯一路」の主旨、人類の運命共同体の構築には国際的な視野を持つ複合型人才の支持が必要とされている。南開大学が行っている「人文社会科学の専門＋外国語専門」、つまり「通用＋非通用」という複合型国際化の学部生の人材育成プロジェクトは、国際化の複合型ハイエンドの人材育成のために新しい方法を探究しようとする改革だと言える。本文は「インターネット＋」時代の新しい手段、「MOOC」と「SPOC」を紹介して、日本語学科を例に、これから導入する「SPOC」の実行を展望してみようと思う。

Abstract

Chinese universities are facing a general problem of insufficient compounding in the mode of talent cultivation. Constructing a human community of common destiny, which is proposed by China's ongoing Belt and Road Initiative, calls for interdisciplinary talents with international perspectives. Nankai University is exploring a new way to cultivate high-end interdisciplinary talents, namely the hybrid undergraduate teaching project of two majors, one major from the humanities or social sciences and the other from foreign languages. Taking Japanese major as an example, this paper intends to solve the problems in the teaching reform by introducing the new means of ‘internet plus’ such as MOOC and SPOC.

「インターネット＋」時代の到来に伴い、各分野において、さまざまな変化が現れてきた。教育分野も例外ではなく、「教師＋講義＋教室＋学生」から構成された伝統的な教育活動は次第にインターネット、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器及び数百万人の学習者という構成に変えられるようになる。学習者は自ら主体的に学ぶことができるようになり、学習者が必要に応じて自主的に

教師を選ぶことができる。これはまったく伝統的な教育活動を転覆する可能性がある。この発展動向に基づき、大学における教育活動も徐々に変わりつつある。

一、「MOOC」(Massive Open Online Course) から「SPOC」(Small Private Online Course) へ

「MOOC」(ムーク)とは、「大規模に開かれたオンライン講義」という意味で、インターネット上で誰もが無料で大学などの高等教育機関の講義を受けることができる仕組みのことである。講義ではシラバスや配布資料、ビデオやクイズ、シミュレーション教材などが受講者に提供され、テストや課題の修了条件を満たした学習者には修了証も発行される。そして興味に基づいて、時間や場所を問わず、学びたいければ、何でもオンラインで学習することができる。「MOOC」の取り組みは、大学における現在の教育方式に衝撃を与え、かつ教師に対してより高度な要求を出している。

中国における「MOOC」の取り組みは、2013年から全面的に始まっている。教育部でも2015年度の仕事上の重点において、「「MOOC」の取り組みと管理を強化する」と指摘した。国家政策の推進により、「MOOC」の取り組みが急激に進んできた。教育部の最新データによると、現在のところ、中国の高等教育機関が自主的に作成した「MOOC」プラットフォームはすでに10以上あり、460以上の大学によって完成された3200余りの「MOOC」講義がオンライン上にアップデートされ、5500万人以上の大学生と社会の学習者が「MOOC」講義を履修している。2018年1月15日、教育部は選出された第一陣の全国490科目の「国家精品オンライン開放講義」を公布した。その中に、北京大学、清華大学、武漢大学、ハルビン工業大学などの一流大学が作成した344の課程が入選し、入選した講義全体の70.2%を占める。

中国のような面積が広く、経済発展のバランスがとれていない国家においては、「MOOC」の出現は、都市部から遠く離れた地域で貧しい生活を暮らしながらも意欲的に学びたい子供のために、良質な講義を提供することになる。例えば、雲南省のある自治州の13歳の男の子は「中国大学(MOOC)プラットフォーム」を通して、武漢大学、吉林大学などの大学が作成した「古代文字学」、「奇異な生物工学」、「人体科学」などのオンライン講義を受講し、成績が優秀であることを

証明する証書を獲得した。四川大学の教授による「中国の詩歌の芸術」という講義は「中国大学(MOOC)プラットフォーム」において大変人気があり、累計で履修人数は延べ5万近くになった。浙江大学は2018年の夏休みに6000名余りの大学新入生を対象に「新入生養成教育」というオンライン講義を出すそうである。

「MOOC」の価値は世界の一番良質な教育資源を地球の隅々にまで広めることにあり、世界中の学習者に世界一流大学の名高い教師の講義をうけてもらうことにある。各大学の資源の共通化・標準化を実現し、教育の公平性を促進する。そして、自宅にいながら、履修単位を獲得することができる。教育機関側がかけるコストも下げられる。技術的な角度からみても、一人一人に応じた教育設計、専門的な教育チーム、学習者間の相互学習などは、学習者の学習興味を導き出し、教師のレベルと教育効果もより広い範囲から認定され、高められる可能性があるだろう。

ところで、無視できないのは現在のところ「MOOC」の構築及び応用においては、まだたくさんの課題に直面していることである。オンラインのオープン型の自主学習において、制約や激励が不足するため、「MOOC」を利用し、学習する人が多い一方、合格率が低いという現状がある。これらはみな「MOOC」の普及を阻害している。アメリカ、イギリス、フランスなどの国では、「MOOC」が開発されたばかりのとき、発展が急激で、一時は伝統的な大学の転覆者になる恐れがあると思われていたが、しかし「MOOC」の上述のような欠陥があるため、それが大学の教育を高めることができないうばかりでなく、また大学教育に間接的な圧力とプレッシャーをもたらした。そのため、大学の積極的な支持を得られず、普及も望めなくなった。

そんな中、「MOOC」における制約と激励の不足による「受講者は多いが、合格率が低い」という状況を背景にして、「SPOC」が生まれてきた。

「SPOC」(Small Private Online Course)は小規模に限定されたオンライン講義で、「MOOC」で提供されているプラットフォーム(LMS)を使って、反転授業(The Flipped Classroom)やブレンド型学習に活用できるようなコンテンツを受講生に提供することである。カリフォルニア大学バークリー校のアマンド・フォークス教授から最初に出されたものである。現在のところ、ハーバード大学「SPOC」実験、カリフォルニア大学バークリー校「SPOC」の実験と普及、カリフォルニア州シリコンバレー地区のサンホセ州立大学(San Jose State University)

とボストン地区のバンカーヒルコミュニティ学院 (Bunker Hill Community College)、マサチューセッツ工科大学「MOOC」講義の応用「SPOC」実験など、すべて初歩的な効果を挙げた。

中国においても、清華大学MBAの「管理の経済学」と「中国世界と経済」という講義は、「SPOC」を通して、グローバル化の教育の体系を作りあげた。天津大学の「製品図面を学ぶ」という講義は「SPOC」を通して全国の21の都市の32の大学の2500人以上の学生に同時中継する形で講義をすることを実現した。それ以外に、浙江大学、武漢大学、四川大学などの大学は、次々に「MOOC」を補助教育方式として、学生にオンラインで講義すると同時に、教室でインタラクティブな形で学習者と討論したり、知識のチェックをしたりする教育方式、つまり「SPOC」教授方式で授業を行うようになった。

学生にとっては、オンラインにおける講義、そして、大学や学部の垣根を超えたインタラクティブな教育資源にアクセスすることができ、また教室での教師の指導も受けることができるという多角的な学習ができるようになった。教師にとっても、新しい教育モデルを使うことによって、今までの教育を反省することができ、更に濃厚な学術的教育環境を形成することができると思われる。

二、「通用+非通用」とは

2017年7月に中国共産党中央弁公庁、國務院弁公庁は「国内外における人的交流の仕事を強化する意見に関して」を配布して、新しい時代、新しい情勢における大学の人材育成に対してもっと高い要求を出した。「一帯一路」は、人類の運命共同体を提案し構築するように提唱している。これらの政策は、国際的な視野を持つ複合型人材の支持によってはじめて推進されるのである。一方、現行の大学教育の人材育成モデルは、以上のような複合型の人材養成には物足りないようである。例えば、外国語専門の学生はその他の学科の素養が不足しているのに対して、その他の学科の学生は専門に関する知識はあるが外国語の能力があまり強くないというような事例である。

このため、南開大学は国家戦略の需要に立脚して、教育と人材育成モデルの改革を通じて、国際化の複合型ハイエンドの人材育成のため新しい方法を探求しようとして、元からある「双学位(ダブル・ディグリー)」の上に、この「人文社会科

学の専門+外国語専門」という複合型国際化の学部生の人材育成プロジェクト、つまり「通用+非通用」というプロジェクトを開始した。もうすでに2017年9月に大学に入った新入生を対象にこのプロジェクト実施した。

この「通用+非通用」プロジェクトは、現在のところ外国語学院、歴史学院、観光とサービス学院、経済学院の4つの学院が参画して、7つの専門にまたがって、つまり世界史、観光管理、国際ビジネスという3つの「通用」専門とドイツ語、フランス語、日本語、ロシア語という4つの「非通用」専門の間で実施されている。この7つの専門の新入生は大学入学後に、各自の学院で自らの意志で「通用+非通用」プロジェクトに申し込んで、テストを通過して選抜されたら、3つの「通用」専門の学生は第2の専門としてドイツ語、フランス語、日本語あるいはロシア語を選ぶことができる。一方、4つの「非通用」専門の学生は第2の専門として世界史、観光管理あるいは国際ビジネスを選ぶことができるようになっている。

このプロジェクトは、学習期間が4年で、成績の合格者は、外国語専門の学士号と人文社会科学専門の学士号の両方を獲得することができる。いままでの「双学位」と違うのは、「通用+非通用」プロジェクトは両方とも「物事に深入りしない」方式の学習ではなく、双方の専門課程が学生の願望を尊重した上で、適度に学生の育成計画を調節し、12種類の「個人オーダー制」の双学位の育成計画を作成するところにある。

「通用+非通用」プロジェクトは、学生が聴講生として講義を受けるのではなく、独立した学年とクラスの制度である。1、2年次は主に外国語学院が提供する外国語の講義を受講し、3、4年次は関連する人文社会科学学院が専門の講義を担当する。「通用+非通用」プロジェクトは、南開大学の人材育成における「供給側」の改革の試みであり、人材の供給と需要の構造における対立を解決するのに役立つと思われる。国際化の複合型人材を育成することを通じて、学生の総合的な競争力が高められ、学生のためにより多くの発展空間と条件を提供し、国家の経済発展に寄与することを目的としている。道具としての言語と専門の学科を互いに結合して、学生の「将来の計画に悩む」という問題を解決することが期待されている。

学校のこのような大きな改革に直面して、日本語学科がもし依然として伝統的な教育法で教師が講義したり、学生に宿題をさせたりするような教育体系を続け

ていれば、直面する変革に対応できなくなる恐れがあると私は思っている。日本語学科も改革をせざるをえなくなる状態に迫られている。いままでの国内外の「MOOC」の実例、「SPOC」の取り組みの実例を収集、分析した上で、そして、広範囲に学生の意見を求めた上で、日本語学科においても「SPOC」(「MOOC」+反転授業)という教育モデルを試みることにより、直面する難問を解決しようではないかと私は思っている。

三、「SPOC」の今後の展望——日本語教育に関連して

「MOOC」の価値は大学・高等教育機関の側による知の独占を打ち破り、良質な教育資源の共通化・標準化を推進することにある。一方、「MOOC」には、上述したように「受講者は多いが、合格率が低い」という欠陥がある。したがって、今後はどのように「MOOC」を大学の講義に有機的に取り組むか、つまり、「SPOC」をいかに運用するかは、大学教師が深く研究し、工夫する任務だと言える。国内外大学の実践が証明した通り、「SPOC」は、探索中でありながら、すでに教育の質の向上や教師能力の引き上げ、教育コストの削減などにそれなりの優位が表れてきた。南開大学が「通用+非通用」プロジェクトを実施するにあたり、私達の日本語学科はどのように「SPOC」を導入するのだろうか。次に、その実行の可能性を分析し、「SPOC」に取り組む際の注意点及び問題点について私見を述べてみようと思う。

(一) 実行の可能性

1、「通用+非通用」プロジェクトの特徴に適合する

日本語学科が引き受ける「通用+非通用」プロジェクトは世界史、観光管理、国際ビジネスという3つの「通用」専門から、テストを通じて学生を選抜して、選抜された学生に日本語という「非通用」専門で2年間勉強してもらい、その後再び各自の「通用」専門に戻って引き続き学習させるというものである。この過程はちょうど「学内で学生に向かって、入学試験、クラス分けなどの方法を通じて」という「SPOC」の環節に合っている。「SPOC」を導入したら、この「通用+非通用」プロジェクトの学生は日本語専門の学生と同一の「MOOC」プラットフォームを利用することができ、学生の人数に応じてクラスを分けた上で日本語

学科の教師が教室で科目によって週に一、二回程度、知識をチェックしたり、テストをしたりすることによって、指導する。要するに、「SPOC」の導入により比較的簡単に「通用+非通用」プロジェクトによる学生数の増加を解決することができると思う。

2、政策の支持を利用して、学校の内外の資源を統合し、日本語講義の「MOOC」プラットフォームを構築する

教育部の計画によると、2020年までに3000科目の「国家精品オンライン開放講義」を認定するそうである。そのため南開大学日本語学部は「MOOC」プラットフォームを製作する際、南開大学日本語学部は本学部在籍する教職員を組織して動画のコースウェアを作製すると同時に、既存の共有資源を十分に利用したいと思う。本学部の教育目標に合わせて、すべての資源を統合して、最も優良な日本語専攻の「SPOC」教育モデルを構築する。現在、中国において、比較的有名な「MOOC」プラットフォームには清華大学の「学堂オンライン」、『網易の雲教室』⁽¹⁾の「中国大学MOOCプラットフォーム」、交通大学連盟の「ewant」⁽²⁾、『果実の殻』⁽³⁾の「MOOCネット」などがある。

3、青年教師と年配の教師が優位なところを補い合って、共に「SPOC」教育方式を作り上げる

現在のところ日本語学科には教員が13名おり、青年教師と年配の教師の割合は6対7である。年配の教師は教育の経験が豊富であるため、教室での指導にその経験を生かしてもらうことができるが、青年教師はインターネットに関する技術に精通するので、「MOOC」プラットフォームを作成する上で多く貢献してもらうことができる。このように互いの優位なところを補い合って、「SPOC」を共同構築することによって、若い教師が年配教師から教室での経験を学ぶことができる一方、年配の教師も若い教師からネットワークのプラットフォームの知識を学ぶことができると想定される。

- (1) 網易の雲教室は網易会社所属のオンライン学習プラットフォームで、2012年12月に正式にウェブサイトをインターネット上にアップされた。主に学習者に大量の、良質の講義を提供する。
- (2) 「ewant」は台湾の国立交通大学、上海交通大学、西安交通大学、西南交通大学と北京交通大学という五つの大学によって、共同開発されたオンライン教育プラットフォームである。2013年に台湾の国立交通大学に、オンライン教育資源センターが置かれた。
- (3) 「果実の殻」は都市科学技術を好む若い人向きの社交ウェブサイトで、2010年に正式にインターネット上にアップされた。

4、日本語学科の講義の半分以上が精品講義⁽⁴⁾の制作経験を持つ

南開大学は以前から学校内の教育改革を実施しているので、日本語学科のほとんどの講義、例えば、日本語精読、日本語会話、日本文化の概況などの講義はみな学校内の精品課程に選ばれたことがある。それぞれの講義内容に既にコースウェアが備わっている。つまり、「MOOC」プラットフォームを作る基礎がすでに存在するのである。

(二) 準備するとき、注意するところ

1、事前宣伝を行うこと

重視するかどうかはプロジェクトの成否を決定する。特にこのような共同で行うプロジェクトの場合においては、「SPOC」教育方式の必要性を十分に宣伝することが必要だと思われる。多種の原因により、例えば教師が学術論文の執筆や講義の準備はもちろん昇進のプレッシャーを受けて疲れているせいで、現行の教授法はもう教育方法から審査方法まですでに現代の大学生の需要を満足できなくなったという事実を明確にする必要がある。そのほかに、ネットワーク化にともない、現在のところ知識の獲得はもう教師依存ではなくなり、インターネットを使って、いつでもどこでも獲得することができるようになってきた。教師はただ知識の伝達者としてだけでなく、学習者が知識を獲得する協力者となり、知識の運用を助ける指導者ともなり、知識を更新する案内者ともなるべきだと思われる。

2、「SPOC」の教育理念を明確にすること

「SPOC」の核心理念は教師の役割転換を実現させることにあり、学生に自主的に学習させ、自ら知識を発見させることを実現することにある。従って、学生の視点や学習習慣から教育方法の設計を展開すべきだと思われる。学生を受動的に知識を受けることから、自ら学ぶ管理者、知識のファインダー、知識運用の実践者に変えさせる。コースウェアを作る時、常に学生の立場に立って、学生の理解と思考能力を考慮に入れて、教育モデルを構築して、正確に学生に知識を伝達しなければならないのである。

(4) 精品講義とは、一流の教師陣、一流の教育の内容、一流の教授法、一流の教材、一流の教育管理などが備わるモデル性の講義のことである。学校、省(市)、国家という3ランクに分けられ、中国では、大学の教育の質を改革する重要な構成部分とされている。

3、教育の目標と教育モデルを設定すること

科目ごとに先に教育目標を設定して、そして、目標に応じて教育モデルを設定する。続いて、目標の中から学生の掌握すべき知識のポイントや獲得する能力を取り出す。注意しなければならないのは、「SPOC」が講義を分解していくつかの知識のポイントにまとめられるため、学生は「MOOC」プラットフォームから獲得した知識がばらばらで、知識体系の系統性が破られており、教育モデルを構築する際に、分散する知識のポイントのつながりを教師が取り合わせなければならないことである。学生は具体的な知識だけでなく、知識のポイントを通じて知識の体系に対しても全体的な把握が求められる。

4、教室で主に討論、疑問への解答、テストをすること

学生が自らMOOCプラットフォームで学ぶのは知識の理論だけであるが、これらの知識がどのぐらい身に付いたかは教師の側はわからない。それは教室で練習をさせたり、テストをしたりすることによって、解決しなければならない。また、知識の応用能力を高めるため、授業のとき、関連する実践練習をさせる必要がある。つまり、伝統的な詰め込み教育から、啓発式、討論式の教育方法に変えることにより、学生の思考能力や問題を発見する能力を育成することが、今後の教育の主眼になっていくと思われる。

5、評価方法を改革することにより、学生を監督し、それぞれの段階の学習内容を完成させること

今回、南開大学日本語学科在学の二、三学年の学生を対象にアンケート調査をしたところ、半分以上の学生は「SPOC」の取り組みに、興味を持っていると答えたが、やはり一部分の学生は自ら学習できるかどうか自信がなく、厳格な監督メカニズムが必要だと答えた。そのため、科目ごとに「MOOC」のオンライン講義の完成状況、宿題、ゼミの完成状況及び期末試験という各段階に対応する評価をつける必要があると見られる。各段階に対応する点数があるため、もっと的確に学生に真剣に学習を完成するように促すことができる。また、教育の質もそれによって高められると思われる。

(三) 問題点

中国において「SPOC」が登場してから既に何年も経過し、それらが教育部からも強力に支持されているにもかかわらず、「SPOC」を利用した実践的な取り組み

がそれほど普及されていないのが現状である。それにはいろいろの原因があるが、私は人的要因、つまり教師と学生の主観的な原因がもっとも大きな原因だと思っている。

1、教師が「SPOC」に対する重視と認識が足りないこと

アメリカでは、2014年6月15日から2014年7月20日まで、「教師焦点」というウェブサイトを通して、「SPOC」における最も重要な環節「反転授業」について、アンケート調査が行われた。有効回答は1089人で、対象はほとんどアメリカとカナダの大学教師である。調査の結果によると、「反転授業の方式で授業をしたことがあるか」については「やったことがある」と回答した人が75.04%であった。ただし、その中の5.49%が「これからはもうやらない」と答えている。また、14.15%が「やったことがないが、将来やってみたい」と答えている。しかし残りの10.08%の人が、「やったことがないし、将来もやるつもりはない」と答えている。「なぜ反転授業に興味を持っていないのか、あるいは反転授業をやらない理由」については、「反転授業があまりわからないから」が最も主要な原因で38.94%を占めている。その次は「改革である以上、長いことは続けられなくて、すぐに新しい教育方法に変えられるから」で、27.43%を占めている。「反転授業はかなり時間がかかるから」という理由も20.35%、「どうしてもこの教育方式を受けられないから」という理由も17.70%を占めており、さらに「経験がない、あるいは関連技術がわからないから」という理由も15.04%を占めているようである。

中国においては、「SPOC」、「反転授業」などの話題をしたら、「そうしたら自分がEラーニングにとって代わられるのではないか」と答える人が見られた。「SPOC」の実施に抵抗がある教師が多いようである。もう一つの誤解は、「SPOC」教育が実現されたら、学生はオンラインで学習できるから、学術論文の作成に時間を空けてくれると思っている教師もたくさんいるようである。以上は「SPOC」に対する重視の不足と認識の偏差だと言える。それらの人的な要素はこれからの「SPOC」構築の過程に障害をもたらしかねないと判断できる。

2、学生が反転授業に対する協力度が足りないこと

「SPOC」の核心理念は教師の役割転換を実現させることにあり、学生に自主的に学習させ、自ら知識を発見させることを実現することにある。しかしすでに伝統的な教育方式に慣れてきた学生は、中には自主的にオンラインで知識を獲得することができるかもしれないが、大多数の学生はまだ自ら問題を探し出して教室

でのゼミの時間に自由に質問したりすることができないというのが、現状のようである。すでに「SPOC」を実施している学校の経験からみれば、確かに最初の段階では、学生はこの自主的な教育方法に慣れなくて、教室の場がしらける現象が現れた例もある。これらは事前対策として、「SPOC」の目標、教育モデルを構築するときに考慮しておかなければならないことだと思われる。

教育部高等教育司の司長の呉岩は最近、次のような話をした。「これから、中国はオンライン開放講義の構築を主な任務にし、世界の情報技術と教育とのより深い融合を推進しようとする。」「MOOC」は「良質な講義」を「誰も」が「無料」で学べる学習機会を提供することで、さまざまな分野における知識レベルの共通化・標準化を推進し、個人が意欲的に学ぶことを支援するとともに、個人の知識やスキルを社会的な評価へ繋げていくことを目指すものである。現在のところ、まだ問題が多数存在しているが、にもかかわらず、多くの方面から、今後の教育が進むべき目標を示すものだと期待されている。